

外為マンスレビューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2016/01/04

リスクオン・オフに従う

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↓	原油価格の動向には注意 予想レンジ: 84.000 ~ 88.000 円	2 - 3
NZドル/円	↓	NZの内部要因では動きづらい 予想レンジ: 78.000 ~ 83.000 円	4 - 5
ランド/円	→	短期的なショートカバーの可能性残る 予想レンジ: 7.400 ~ 8.200 円	6 - 7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

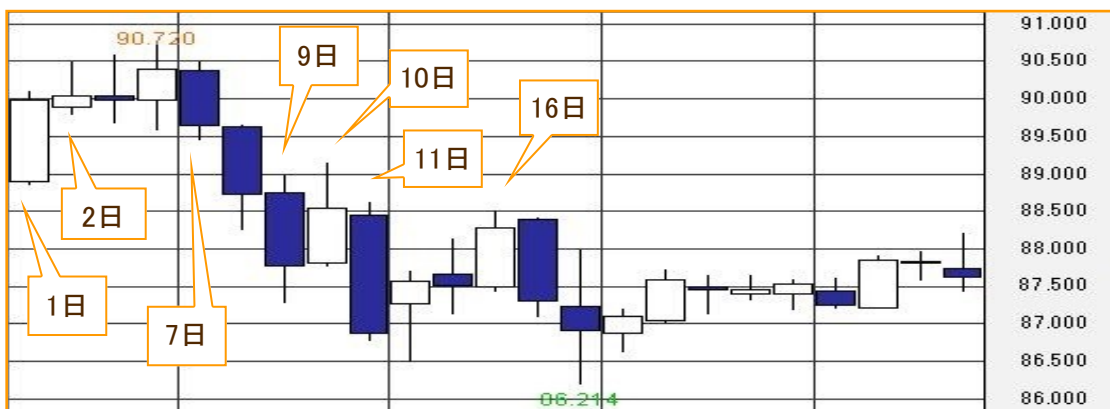
Copyright©2016 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 12月の推移

AUD/JPY

12月の豪ドル/円相場は86.214~90.720円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の下落(豪ドル安・円高)となった。

月初、豪中銀(RBA)が発表した声明などからRBAが当面金融政策を据え置くとの思惑が強まった事や、豪7-9月期国内総生産(GDP)が予想を上回った事、米11月雇用統計が好結果でNYダウ平均が堅調だった事もあり、豪ドル/円は一時90.720円まで上昇。しかし、その後に原油の供給過剰感が強く意識され、NY原油が2009年2月以来の低水準である30ドル台後半まで値を下げる中で豪ドル/円も失速した。米連邦公開市場委員会(FOMC)という一大イベントを通過した後は年末特有の閑散とした相場で、方向感に乏しい状態が続いた。



四本値

OPEN	88.906
HIGH	90.720
LOW	86.214
CLOSE	87.626

1日	豪中銀(RBA)は市場予想通り政策金利を据え置いた。さらに声明文も「金融政策は緩和的である必要」「インフレ見通しで政策緩和の余地が生じる可能性」「豪ドルは商品相場的大幅な下落に適応しつつある」「経済は長期平均を下回るペースで拡大」と、前回とほぼ同じ内容となった。追加緩和に一段進むような示唆が無かった事を好感してか、発表後の豪ドルは小幅に上昇。その後は主要国株が堅調に推移する中で、90.107円まで堅調に推移した。
2日	豪7-9月期国内総生産(GDP)は前期比+0.9%(市場予想:+0.8%)、前年比+2.5%(同:+2.4%)と予想を上回った。これを受けて豪ドル/円は一時上昇。その後、「石油輸出国機構(OPEC)の大多数は減産に合意した」との一部報道を受けてNY原油が41.97ドルまで急騰すると、豪ドル/円も90.494円まで値を伸ばしたが、その後に「サウジアラビアや湾岸アラブ諸国は減産を支持していない」と報じられた事で原油が失速した事から、豪ドル/円も上げ幅を縮めた。
7日	前週末に石油輸出国機構(OPEC)が減産を見送った影響が残る中、NY原油が下落。こうした中で豪ドル/円もジリ安となった。
9日	米エネルギー情報局(EIA)が発表した週間在庫統計において原油在庫が市場予想に反して減少していた事を受けてNY原油は一時38.99ドルまで急騰したものの、世界的な供給過剰懸念が強い中で、上昇が一服した後に急速に売り込まれ、36.87ドルまで失速した。これを受けて金融市場全般的にリスクオフムードが広がると、円は買い優勢となり、豪ドル/円は87.290円まで下落した。
10日	豪11月の失業率が5.8%、就業者数が7.14万人増、労働参加率が65.3%(予想:6.0%、1.00万人減、65.0%)となった。良好な結果となった前月の反動が警戒されていたが、予想外の好結果を受けて豪ドル買いが強まり、豪ドル/円は89.153円まで急騰した。
11日	国際エネルギー機関(IEA)が、少なくとも2016年遅くまでは石油市場での供給過剰状態が続くとの見通しを発表した事を受けてNY原油価格が下落すると、豪ドル/円は下落した。
16日	米連邦公開市場委員会(FOMC)は0.25%の利上げを決定。米連邦準備制度理事会(FRB)のイエレン議長が労働市場の先行きなどについて一定程度楽観的な見方を示し、NYダウ平均が上昇すると、豪ドル/円も上昇した。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	19799.08
HIGH	20012.40
LOW	18562.51
CLOSE	19033.71

NYダウ平均

OPEN	17719.72
HIGH	17901.58
LOW	17116.73
CLOSE	17425.03

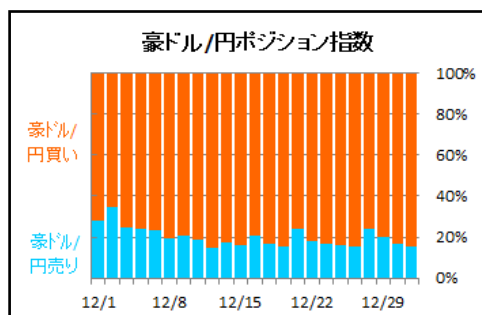
上海総合指数

OPEN	3442.441
HIGH	3684.567
LOW	3399.280
CLOSE	3539.182

豪10年債利回

OPEN	2.839%
HIGH	2.980%
LOW	2.681%
CLOSE	2.880%

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国12月財新製造業PMI(4日)
- ・豪11月貿易収支(7日)
- ・豪11月小売売上高(8日)
- ・米12月雇用統計(8日)
- ・中国12月消費者物価指数(9日)
- ・豪12月雇用統計(14日)
- ・中国12月小売売上高(19日)
- ・中国12月鉱工業生産(19日)
- ・中国10-12月期GDP(19日)
- ・豪10-12月期消費者物価指数(27日)
- ・米FOMC(26-27日)
- ・日銀金融政策決定会合(28-29日)
- ・主要国株価、国際商品価格

1月の見通し

12月の豪ドル/円は下落したが、これはほとんど原油価格の下落由来のものと言える。市場の原油相場への関心は非常に強く、豪ドル相場も引き続き影響を受け続ける公算が大きい。ファンダメンタルズ的に、原油価格が上昇トレンドに移行する要素はほとんどないため、1月もNY原油が下落し続けるなら、豪ドル/円も軟調に推移するものと見る。ただし、NY原油先物に関してはショートポジションがかなり積みあがっており、状況次第ではショートカバーなどによって短期的に堅調に推移する事もあり得る点には注意したい。

また、豪州の独自要因に関しては、今月はRBAの理事会もなく、経済指標のみだ。RBAの金融政策据え置きスタンスが強い中では、豪指標が金融政策変更の期待を呼ぶ材料にはなりにくく、豪ドル相場への影響は限られるものとみる。また、日銀に関しても1月の追加緩和期待は非常に小さく、これを手掛かりに値が大きく動く可能性は低いと考えるべきだろう。(石川)

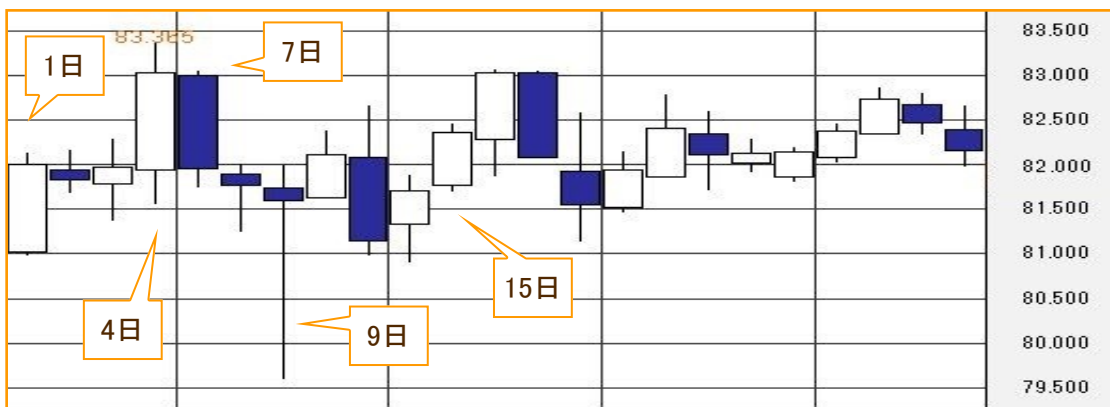
(予想レンジ: 84.000~88.000円)

NZドル/円 12月の推移

NZD/JPY

12月のNZドル/円相場は79.614～83.365円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約1.5%の上昇(NZドル高・円安)となった。

月初はリスクオンムードの中で上昇する場面も見られたが、原油価格が急落し、金融市場全体にリスクオフムードが広がると頭を押さえられた。NZ中銀(RBNZ)の利下げがNZドル売り要因になる場面もあったが、同中銀が当面金融政策を据え置く見通しとなった事で下げ幅を圧縮すると、その後はほとんど主体性に乏しい動きとなった。なお、NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数はやや回復傾向にあり、これもNZドルを積極的に売る要因を排除する一因になった可能性がある。



四本値

OPEN	81.028
HIGH	83.365
LOW	79.614
CLOSE	82.165

1日	NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比+3.6%となったが、発表直後のNZドルの反応は限られた。
4日	米11月雇用統計が良好な結果だった事を好感してNYダウ平均が上昇すると、NYドル/円は83.365円まで値を伸ばした。
7日	前週末に石油輸出国機構(OPEC)が減産を見送った影響が残る中、NY原油が下落。これを受けて主要国株価も値を下げるなどリスクオフムードが強まると、NZドル/円も下落した。
9日	RBNZは市場予想通り政策金利を2.75%から2.50%へ引き下げると発表。これを受けてNZドル/円は急落したが、声明において「状況が正当化されれば利下げの可能性あるが、現状の金利でインフレ目標の達成は可能と予想」との見方が示された事から当面の追加利下げ期待が後退。NZドル/円は急速に下げ幅を縮めた。
15日	NZ乳業大手フォンテラの電子入札GDTの物価指数が前回比+1.9%となったが、発表直後のNZドルの反応は限られた。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	19799.08
HIGH	20012.40
LOW	18562.51
CLOSE	19033.71

NYダウ平均

OPEN	17719.72
HIGH	17901.58
LOW	17116.73
CLOSE	17425.03

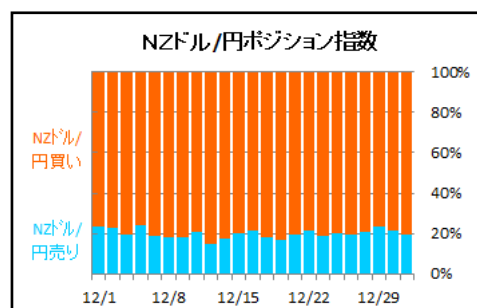
上海総合指数

OPEN	3442.441
HIGH	3684.567
LOW	3399.280
CLOSE	3539.182

NZ10年債利回

OPEN	3.545%
HIGH	3.648%
LOW	3.496%
CLOSE	3.571%

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

- ・NZフォンテラ入札(5日、19日)
- ・米12月雇用統計(8日)
- ・中国12月消費者物価指数(9日)
- ・中国12月小売売上高(19日)
- ・中国12月鉱工業生産(19日)
- ・NZ10-12月期CPI(20日)

月間指標カレンダー(外部リンク)

- ・米FOMC(26-27日)
- ・RBNZオフィシャルキャッシュレート(27日)
- ・NZ12月貿易収支(27日)
- ・日銀金融政策決定会合(28-29日)
- ・主要国株価、国際商品市況

1月の見通し

ニュージーランドでは27日にNZ中銀(RBNZ)のキャッシュレート発表が予定されているものの、12月の会合で当面の政策据え置き姿勢が示された事で、金融政策変更の可能性はほとんどない。したがって、多少の経済指標のブレが金融政策見直しについての思惑を呼ぶ事は考えにくく、1月も12月と同様にNZサイドの要因で相場に大きな方向感が出る事は難しそうだ。また、日本についても、日銀が12月に量的緩和の補完策を打ったばかりのため、1月の理事会で追加緩和を行う可能性は極めて低いと見る。NZドル/円相場は基本的に、主要国株価や原油価格などの動向を見ながら、リスクオンとなれば上昇、リスクオフとなれば下落という、主体性に乏しい動きとなりそう。1月のNZドル/円は中国の人民元安や上海株下落などを受けて、始値の水準(82.00円台)から東京市場中に80円台後半まで急落した。これ以降も下げが続いた場合は、12月安値79.614円、11月安値79.462円、節目の79.000円、78.000円などが順次ターゲットとなってこよう。一方、上昇した場合は200日移動平均線(執筆時点:83.125円)付近が上値抵抗になるものと見る。(石川)

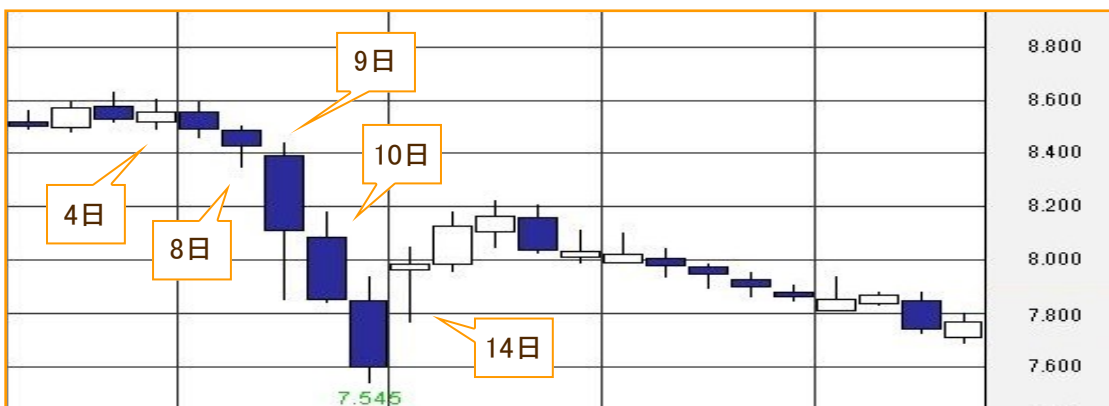
(予想レンジ:78.000~83.000円)

ZAR/JPY

ランド/円 12月の推移

12月のランド/円相場は7.545～8.631円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約8.7%の下落(ランド安・円高)の推移となった。

12月の南アランドは同国の経済指標の弱い結果や、財務相の解任騒動などが売り要因視された他、原油安を背景とするリスクオフムードの拡大が重石となり、7.545円と過去最低水準まで下落した。その後は8.20円前後まで自律反発したものの、積極的にランドを買う要因もなく、クリスマスの閑散ムードも手伝って、戻りを売られる結果となった。また、4日に格付け会社フィッチが南アを格下げした他、S&Pも格付け見通しを引き下げており、これらもランド売りの一因になったとみられる。



四本値

OPEN	8.519
HIGH	8.631
LOW	7.545
CLOSE	7.772

4日	格付け会社フィッチが南アの格付けを引き下げたが、発表直後の南アランドの反応は限定的だった。
8日	南ア7-9月期経常収支が対GDP比で-4.1%と市場予想(-4.0%)以上の弱さだった事からランドは下落。さらにその後は原油価格が下落する中で全般的に資源国通貨が売られると、ランド/円は8.350円まで下値を切り下げた。
9日	南ア11月消費者物価指数は前年比+4.8%と市場予想通りだったが、その後に発表された南ア10月小売売上高が前月比+0.2%と予想(+0.5%)を下回った事がランドの重石となった。さらに、NY原油の下落をきっかけに金融市場全般的にリスク回避ムードが強まると、円を買い戻す動きが活発化。ランド/円は一段安となった。
10日	早朝に南アフリカでネネ財務相が解任され、無名のファンルーエン氏が起用された事で、これまでの財政の緊縮路線が緩められるのではとの懸念から、南アランドは下落した。
14日	前週末にズマ・南ア大統領がファンルーエン氏を財務相から解任し、元財務相のゴードン氏を新財務相に指名。これが市場の安心感を呼び、南アランドは買い戻された。

日経平均

OPEN	19799.08
HIGH	20012.40
LOW	18562.51
CLOSE	19033.71

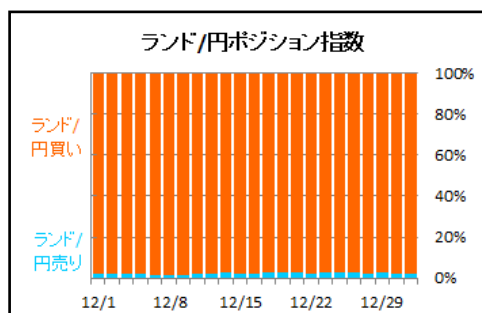
NYダウ平均

OPEN	17719.72
HIGH	17901.58
LOW	17116.73
CLOSE	17425.03

N Y 金

OPEN	1064.60
HIGH	1088.30
LOW	1045.40
CLOSE	1060.20

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・中国12月財新製造業PMI(4日)
- ・米12月雇用統計(8日)
- ・中国12月消費者物価指数(9日)
- ・中国12月小売売上高(19日)
- ・中国12月鉱工業生産(19日)
- ・中国10-12月期GDP(19日)
- ・南ア11月小売売上高(20日)
- ・米FOMC(26-27日)
- ・日銀金融政策決定会合(28-29日)
- ・SARB政策金利発表(28日)
- ・南ア12月貿易収支(29日)
- ・主要国株価、国際商品価格

1月の見通し

1月の南アフリカでは28日に南ア中銀(SARB)の理事会が予定されている。同中銀は11月19日に通貨安防衛やインフレ圧力の緩和のために政策金利を6.25%へ引き上げたが、その時の水準から、ドル/ランド相場は一段とランド安が進んでいる。そのため、1月に利上げを行う可能性は否定できない。もし利上げが行われれば、発表直後はランド高が進む可能性はある。ただし、同国に関しては、財政面や景気悪化、政治面のリスクなどがあまりに強く意識されており、中長期的に見れば売り圧力の方が強いと考えられる。利上げも経済の重石となると考えれば、ランドを積極的に買い続けられる材料にはなりにくい。戻り売りの展開は続くとみて良いだろう。

ただし、原油が上昇し、主要国株価が堅調となった場合には、12月のランド大幅安の反動で、自律反発的な買い戻しが一時的に入る事は想定しておきたい。(石川)

(予想レンジ: 7.400~8.200円)